

団体名		公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団						
①	指 標 名	健康づくり支援センター事業利用者数			目 標 値	1,389人	実 績 値	1,865人
	過 去 の 実 績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	運 成 率	134.3%	運 成 状 況	達成
	(単位:人)	-	2,471	2,263				
	取 組 内 容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①年代やライフスタイルに応じ感染症対策に留意した対面での参加型事業を実施したほか、オンラインによる事業の導入について検討し実施した。②高齢者を対象にフレイル対策として対面事業を実施。介護予防事業「ころばぬコース」「いきいきからだづくり教室」「健康体操教室水曜日クラス」、「インボディ測定会」等。緊急事態宣言等により対面講座が実施できなかった期間は一部の講座参加者へ「自宅のできる体操」テキスト提供を行った。③親子向け講座「ママのための健康講座と親子de体操」をオンライン出前講座として提供していくことを目的に試行事業として実施。④コミュニティ協議会等の地域団体等のニーズに対応した共催事業実施に向け、情報提供としてのPRを実施。⑤一部の講座においてメールマガジンでの申込みを開始し、講座申込みの利便性を図るとともに、メールマガジン登録者を増やした。⑥ホームページ内に「おうち時間de健康づくり」コーナーを開設し、毎日★自宅ジム（健康運動指導士がお勧めする体操PDF）、小・中学生の体力向上企画（タバタ式トレーニングPDF）、栄養コスト満点時短レシピ（在宅ワーク中の方や子どもが休園・休校中の方向け）、だんだん活カアップ体操のDVDを希望者に郵送し、PR等を掲載した。						
	一 次 評 価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 新型コロナウイルス感染症が続く中、身体活動量が低下しがちな生活を送る市民に対し健康づくりへの関心・意欲を高め、健康の維持増進を図るため、感染症対策に配慮した内容や方法で様々な工夫を行いながら事業を提供した。これにより、事業利用者数は、参加型事業の参加者数及びメールマガジン、健康づくりはつらつメンバー登録者数の合計数で当該年度の目標値を上回る結果となった。						
二 次 評 価	新型コロナウイルス感染症による影響が続く中、感染症対策の徹底やオンラインによる講座実施、ホームページの情報発信等、様々な工夫によって健康づくりに対する市民の関心等を高めるための取組に努めたことは評価する。引き続き、健康づくりへの関心を高めるための様々なアプローチ方法を検討し、コロナ禍における適切な事業の実施・提供に努めていただきたい。							
②	指 標 名	健診事業収益			目 標 値	50,000千円	実 績 値	43,851千円
	過 去 の 実 績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	運 成 率	87.7%	運 成 状 況	未達成
	(単位:千円)	56,694	55,964	52,183				
	取 組 内 容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①人間ドック健診をふるさと応援寄付金の返礼品として提供した。②事業団ホームページ、全戸配布の健康づくり広報誌「むさしのけんこうづくり通信」等において、各種健診・検診事業を紹介した。③市関連団体・NPO法人への職域健診利用拡大を図った。④「健康づくりはつらつメンバー」及びメールマガジン「むさしの健康づくり応援ニュース」登録者へ人間ドックについて周知した。⑤託児付きの人間ドックを実施し、子育て世代への受診しやすい環境づくりに努めた。⑥健診事業代行事業者との契約を継続して行った。						
	一 次 評 価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い人間ドック事業が一時中断になった。また、三密回避のため受診定員を減らして実施したこともあり、年間の受診者数は、前年比25.5%（332人）減少した。人間ドック事業収入（補助金を除く）は前年比8,851千円減の27,770千円となった。職域健診は受診者数が前年比6%（86人）増加、事業収入は442千円増加し15,140千円となった。健診事業収入全体では、前年比16.0%、8,332千円減少し、目標は達成できなかった。今後も引き続き自主財源比率の向上に向けて、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、人間ドック事業及び職域健診事業の拡充に努めていく。						
二 次 評 価	新型コロナウイルス感染症による大きな影響があったが、様々なツールを活用して、人間ドックや職域健診の周知に努めたほか、人間ドック健診をふるさと応援寄付金の返礼品として提供するなど、事業団が実施する健診事業の利用拡大に努めたことは評価する。引き続き、感染症対策に取り組んだうえで、安心・安全な健診事業の実施に努め、収益向上に取り組んでいただきたい。							
③	指 標 名	人材育成指針			目 標 値	概要の作成	実 績 値	作成に向けた検討
	過 去 の 実 績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	運 成 率	50.0%	運 成 状 況	未達成
	(単位:)	-	-	30%				
	取 組 内 容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①職員の能力を伸ばし、資質を向上させるために必要な人材の育成方針について、他団体における方針や取組み等について情報収集を行い、事業団における人材育成指針の概要について検討した。 ②事業団における計画目標を達成しビジョンを実現していくための人材育成に関する基本的な考え方、人事に関する基本理念、求める人材像、行動指針等について確認、検討を行った。						
	一 次 評 価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 人材育成方針の全体像について検討を行ったが、さらに具体的な行動指針や育成方針、人事に関する方針等の検討が必要である。事業団として相応しい人材育成に関する基本的な方向性を固め、職員に求められる具体的な行動理念や姿勢等を明確化するとともに、育成していくための手法、研修、制度等、指針の作成に向けた検討を更に進め、人材育成指針の作成を目指していく。						
二 次 評 価	職員の意欲や能力の向上に資するだけでなく、事業団の中期計画の目標達成やビジョンの実現においても必要である「人材育成方針」の作成を進めていることは評価する。令和元年度からの検討事項であり、令和3年度中に作成することを目標に検討を進めていただきたい。							